

昼下がりのバロック Vol.2

山の春を告げる

# フラウトトラヴェルソと チェンバロとさえずり

2026 5/4 (祝)

開場13:30 開演14:00

美しい国クラブハウス

出演 塩嶋達美 (フラウトトラヴェルソ)

岡田龍之介 (チェンバロ)



## 曲目予定

ダカン カッコウ

オトテール 組曲ニ長調 作品5-3

「恋歌 ある日僕のクロリスは・・・」

「優しい鶯よ、どうして・・・」

作者不詳「愛鳥家の愉しみ」より

W.F.バッハ ソナタ ホ短調

C.P.E.バッハ ハンブルクソナタ ト長調

J.S.バッハ トリオソナタ ハ短調 BWV526



入場無料

お申込み

<https://uk-club.jp/revision/>

(美しい国クラブHP お問い合わせフォームへ)

080-5075-4874 (小笠原)

0268-87-3500 (美しい国管理事務所)

美しい国クラブ主催

(株)東信別荘地管理協賛

## 塩嶋 達美 しおじま たつみ

ヴァーモントのフルートの師匠マルセル・モイーズの部屋の壁にはキーが一つ付いただけの木製横笛が飾られていた。興味はあっても知識の全くない当時は、そのようなバロック時代の楽器にアプローチする術はなく、調べることも出来なかった。（因みにその楽器は師匠死後八王子市にて個人蔵され、再会も果たした）しかしちょうどその頃からいわゆる「古楽」奏法による演奏が盛んになり、次第に当時の楽器の複製（レプリカ）も入手しやすくなってきた。帰国後は岡田龍之介氏を含む先達も得て、曲の時代やスタイルに即した楽器を用いての演奏を目指し活動してきた。

オーケストラアンサンブル金沢とのモーツァルト協奏曲共演では19世紀末の円錐管バームフルートを用いて演奏、好評を得る。近年岡田氏と共に韓国に招かれ、光州市にて演奏。長野県白馬村に在住。

## 岡田 龍之介 おかだ りゅうのすけ

慶應義塾大学、東京藝術大学卒業、藝大大学院修了。音楽学を角倉一朗、チェンバロを有田千代子、渡邊順生各氏に師事。全国各地で演奏活動を行い、国内外の優れたバロック奏者との共演を通じてアンサンブル経験を深める。これまでにアリオン・レクチャーコンサート、栃木 [蔵の街] 音楽祭、目白バ・ロック音楽祭、北とぴあ国際音楽祭、ソウル国際古楽祭、みなと・よこはまバロック・シリーズ、旭川雪の美術館古楽コンサート、金沢史跡コンサート、NHK-FM等に出演、韓国での公演も多い。最近「ザロモン室内管弦楽団」や「Ars Nova新潟」の指揮者を務める等、指揮活動にも力を注ぐ。第13、23回山梨古楽コンクール審査員。

ソロCD「銀色の響き」（レコード芸術誌準特選盤）をはじめこれまでに12枚のCDをリリース。都留音楽祭講師（～2017）、洗足学園音楽大学講師（～2022）。古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」主宰。FM鴻巣「クラシックの散歩道」パーソナリティ。日本チェンバロ協会前会長。

## フルート、フラウト・トラヴェルソについて

フルートと聞くと、たくさんのキーを備えた金属製の横笛を思い浮かべるのが今日一般的です。

西洋音楽で用いられたフルートは様々な変遷を経たのち、ミュンヘンのバームにより現在の形にデザインされたのが170年ほど前になります。それ以降も、外見はさほど変わらないのですが、強く大きな音が出るように細かい点でさらに改造されてきました。

フラウト・トラヴェルソ（Flauto traverso）は横吹きフルートの、意味です。18世紀前半に、それまで流行していた縦笛（リコーダー）を押しよけ、代表的な「笛」の座を占めていきます。横吹きフルートが流行り始めのころは、単にフルートというと縦の笛を指したので、わざわざ「横の」をつけて区別する必要があったわけです。

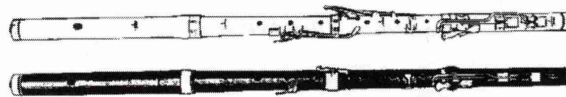
現在ではその呼び名で、おもに18,9世紀の横吹きフルートのことを指すようになっています。



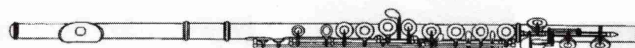
18世紀初頭（フランス）



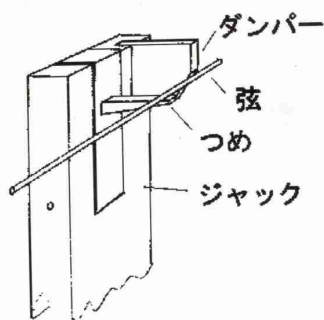
18世紀中頃



18世紀末



バーム式・モダンフルート



チェンバロのアクション

## チェンバロについて

チェンバロは15世紀から18世紀のヨーロッパ音楽において用いられた鍵盤楽器の代表格です。弦をはじいて音を出す方式の「撥弦楽器（はつげんがっき）」で、9世紀頃に東方からヨーロッパへもたらされた古楽器「プサルテリウム（プサルテリー）」に、当時オルガンの機構として普及しはじめた鍵盤を取付けたものが、後にチェンバロとなりました。イタリアで生まれ、オランダで発達、以後仏、独、英と広まり、各地で特徴的な発展をしました。

音の強弱はつけられないため、音色の変化をつけるために複数の鍵盤を備えたり、バフ・ストップ等の発音装置の工夫もされました。

各言語による呼称 チェンバロ（伊）、ハーブシコード（英）、クラブサン（仏） etc